

香取遺産

Vol.122

蘆花半輪これ俳諧の一大事

一茶も認めた俳人・今泉恒丸の墓碑

圓生涯学習課

☎(50)1224



▲前原共同墓地にある恒丸の墓碑



▲持宝院跡の観音堂

市の北部、日蓮宗浄国寺（佐

原イ）隣の前原共同墓地の一角

に江戸時代の後期に活躍した俳

人、今泉恒丸の墓碑があります。

恒丸は、宝暦元年（1751）

に陸奥国田村郡常葉村（現福島

県田村市常葉町）に生まれまし

た。通称を与右衛門といい、名

を「恒丸」といいました。「恒丸」は

俳号で、この他に石巖山人、葛

斎などの号があります。

恒丸は42歳の時に家督を息子

に譲り、諸国行脚に出かけます。

やがて江戸浅草川に移り住むよ

うになりますが、文化3年（1

806）に寓居が火災に遭って

しまいます。これを機に、下総

小南（現香取郡東庄町小南）の

青野太節の勧めで、佐原の篠塚

六兵衛方に身を寄せ、浜宿の延

寿寺隣の持宝院に「葛斎」とい

う草庵を造って住むようになり

ました。延寿寺・持宝院も今は

なく、その跡地である千葉萌陽

高校駐車場には、持宝院を偲ば

せる観音堂が祀られているのみ

となっております。

恒丸は文化7年（1810）

9月、佐原の葛斎にて60歳で没

します。佐原在住はわずか4年

ですが、この期間に、宗匠とし

て下総地方を中心に4000人

もの門人を育てたといわれてい

ます。

同時代を代表する俳人小林一

茶とは、多くの句集に名を連ね

るなど、互いに認め合う仲で

あったといわれています。恒丸

が亡くなる1年前には、佐原の

葛斎庵を一茶が訪ねています。

墓碑には恒丸の辞世の句であ

る「蘆花半輪これ俳諧の一大事」

が刻まれ、碑の背面には「石巖

山人葛斎翁碑」と題した久保木

清淵の撰文による碑文が刻まれ

ています。墓碑の傍らには、妻

で俳人の素月尼（今泉もと）の

墓石が寄り添うように建てられ

ています。

昭和45年5月27日に市の史跡

に指定されました。